

# 健康と光線

## 生活習慣に光線浴

厚生省は成人病を生活習慣病と呼ぶことを提言しています。確かに成人病というと高齢者の病気というイメージがあり、四五十歳までは他人事と思いがちです。しかし小児成人病もあるように成人病は生活習慣によって左右されるため、成人病に対する考え方を改めることです。すべての人の注意を喚起し、予防に役立てたいからに外なりません。

生活習慣には良い習慣と悪い習慣があります。悪い習慣として槍玉にあげられている主なものは、塩分や脂肪のとり過ぎ、肥満、ストレス、煙草、酒などです。良い習慣には、食事性線維をとる、適度の運動をする、ストレスを発散するなどがあります。しかし最近になってビタミンDとカルシウムが生活習慣病に深く関わっていることが分かってきました。すなわち日々光線浴でビタミンDを生成し、カルシウムをとる、これの良い習慣

として次に述べる続発性副甲状腺機能亢進症を予防することが、健康で長生き、というすべての人の願いをかなえる近道なのです。

**副甲状腺はカルシウムの代謝の要**

ところで副甲状腺とは副甲状腺の裏側の四隅についている米粒大の小さな内分泌腺ですが、陸に上がった生物がカルシウム不足に対応するため骨を溶かしカルシウムを補うシステムの要として、カルシウム調節ホルモンとして、カルシウム調節ホルモンのパラソルモンを分泌します。なお外にもカルシウムの腸管からの吸収を促し、腎からの排泄を抑えて、血中カルシウム濃度を上昇させるように作用します。このため、副甲状腺機能亢進症や機能低下症があると、血中のカルシウムの値は上下します。

発行所  
〒153 東京都目黒区目黒 4-6-18

サナモア光線協会

年4回発行  
会費年500円  
電話 東京(03)  
3793-5281  
3712-5322

## 続発性副甲状腺機能亢進症を予防する

——自然と共生して生きる その2——

サナモア光線協会  
サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮

光明

て高カルシウム血症を起こします。副甲状腺機能低下症は甲状腺の手術の際に同時に摘出されて起こすことが多く、パラソルモンの欠落症状を示しますが、ビタミンD欠乏症のクル病に似て低カルシウム血症を起こします。

なお副甲状腺機能亢進症は原発性と続発性に分けられますが、欧米では百人から千人に一人の割合で発見されており、最近になってわが国でも非常に多い疾患であることが明らかにされています。

このように副甲状腺は、血中のカルシウムの値が低下するとパラソルモンを分泌して正常に戻そうとしますが、この状態が続くと副甲状腺の過形成を起こし、続発性副甲状腺機能亢進症になると考えられています。これまで本症を起こす主たる疾患として、ビタミンDを活性化する腎機能が失われビタミンD欠乏状態が続く腎不全やカルシウムの必要量が増えるためカルシウム不足を起こし易い妊娠中や授乳期があげられています。本症はもっと広く捉えなければなりません。

実際、副甲状腺の機能亢進を裏付ける血中パラソルモンの値は加齢に伴って増加し、殊に閉経後の女性で増加が目立ち、骨粗鬆症と相関することが指摘されています。これは加齢に伴うビタミンDやカルシウム摂取量の不足が原因になって血中のカルシウムの値が低下し、続発性副甲状腺機能亢進症を起こすためですが、高齢者では最も主要な原因と考えられています。

副甲状腺機能亢進症を  
予防しよう

副甲状腺機能亢進症は骨粗鬆症を増悪させるだけでなく、前号に記述したカルシウムパラドックスを起こし、生活習慣病は基よりすべての病気に悪影響を及ぼします。治療の原因が腫瘍の場合には手術的に摘出するしかありませんが、続発性の場合には病因をすれば予防可能です。中でもビタミンD欠乏状態が続くとカルシウムをとっても吸収されずに血中のカルシウムの値が低下し、それに対する生理的な反応で続発性副甲状腺機能亢進症を起こしますので、カルシウムだけでなく、自然と共生する光線浴を心掛けてください。忘れると気付かぬうちに虎の子の健康を失います。

謹賀新年

平成九年 元旦

サナモア光線協会

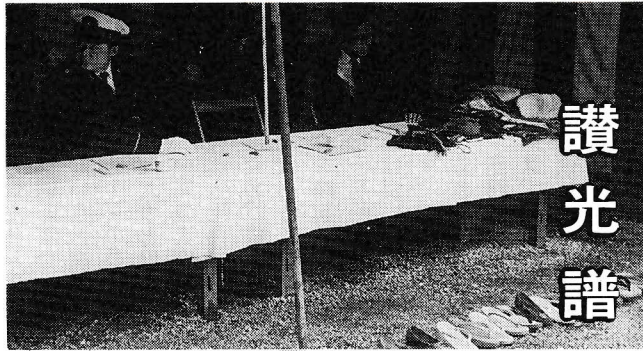
(六日より営業します)





初詣

宇都宮義真撮影



讃光譜



## 普段の心がけ

何事も計画的に実行した場合と無計画に成り行きに任せた場合とは、非常な差が生じるものである。健康と長寿についても望まない人があるまいが、普段からそのために計画をし準備を怠らない人は思いのほか少ない。

最近の統計によれば、日本のゼロ歳児の平均余命、すなわち日本人の平均寿命は年々着実に伸びている。しかしゼロ歳児の寿命が伸びたことを喜んでいても、自分の寿命が伸びて長生き出来るわけではない。誰でも知っているように人の寿命には個人差があり、長生きしそうな人が案外と若死にしたり、弱々しく見えた人が長生きしたりする。だから「人生、一寸先は闇」と言ってしまうばそれまでだが、寿命は普段の心がけで伸ばすことが出来るのである。それであるから健康を保つことに無関心でいつも不養生な生活をしている人は、無策自殺にゆっくり手を

を貸しているようなものである。

## 歩け歩けまた歩け

都市生活者、殊にビルで働くサラリーマンや家庭の主婦は、乗り物の発達や家事の電化で体を動かす必要が減り、清純な日光や清浄な空気にふれる機会も少なくなった。そのため却ってあちこち身体の異常を訴える人が増えている。

このような人にアメリカのバーモント医大のラーブ教授は、運動不足病という病名をつけている。また政治家や経営者や医師などに、狭心症、心筋梗塞、胃潰瘍、糖尿病などが多いが、これらの人が罹病するとマネージャー病と別の病名で呼ぶこともある。これにも運動不足、栄養過剰、ストレスなどが関わっている。運動不足を解消するために誰でも何時でも何処でも出来る運動としては、歩くことが一番簡単で理想的である。歩くのは長距離をぶらぶら歩くより、短時間でもよいからさっさと歩く方がよい。歩く速さの基準は年齢

や健康状態によっても異なるが、慣れるまでは脈拍数が一分間に百二、三十より多くなるようなら少し遅くした方がよい。

適度の運動には実にさまざまな効能があるが、アメリカでは狭心症や心筋梗塞のような心臓

# 健康・長寿の計画

宇都宮 義真

病のリハビリテーションにも奨励され、心臓の小血管の発達を促し、動脈硬化の進行を予防すると考えられている。

## 光線と健康・長寿

植物が日光に当たらないと育

たずに早く枯れてしまうように、動物も常に日光に当たらないと健康・長寿を保てないのである。私たち人間も例外でなく、普段から清純な光線に当たることを心がけないと体の生理的機能が活発に働かなくなるため、健康で長寿を保つことは望めない。なお光線を浴びるとエネルギー代謝が亢進するために、体は運動したのと同じように軽い疲労感を覚えることがあるが、心配する必要は全くない。

健康・長寿の計画は、生きている間は遅いということとは決していない。光線についていえば、むしろ高齢者ほど外出の機会が減り皮膚の光線感受性が低下するため、意識して光線を浴びるようにしなければならない。健康・長寿の計画を立てたら、一年でも二年でも、五年でも十年でも努力を続けることを怠ってはならない。

「健康と光線」

昭和39年7月5日発行

長寿計画が無策自殺か―

昭和41年11月5日発行

運動不足病―

から要約した。



## 日本療術学会が

ホテル クラウドパレス

平成八年十一月十七日

## 光線療法による

## C型肝炎の治療経験



社団法人神奈川県療術師会

海 渡 一二三

## (はじめに)

C型肝炎と診断された症例に光線療法を行っているが、今回は一年以上にわたり光線療法を続け、定期的に経過を追跡調査し得た三症例について報告する。

## (症 例)

【患者1】53歳 女性 平成7年1月20日初診。

症状 C型肝炎による肝臓の機能障害を指摘されており、易疲労感、脱力感、不眠、食欲不振、耳鳴り、めまい、冷感性、慢性的の咳などさまざまな症状で悩んでいた折りに光線療法を勧められて来所した。

【患者2】68歳 女性 平成7年7月13日初診。

症状 平成3年頃から極めて疲れ易く、よく風邪を引くようになったため、病院で検査を受けた。C型肝炎と診断され通院している。なお患者には糖尿病があり、また下腿静脈瘤を併発していて、歩き過ぎると両足の膝から足首にかけて痛むと訴えていた。

【患者3】60歳 男性 平成7年7月15日初診。

症状 三年前にC型肝炎と診断されているが、だるくて仕事にならず、虚脱感、筋力の低下があり、知人の紹介で来所した。なお十年ほど前から慢性的腰痛があり、五年ほど前から手のこわばりや手指の関節痛があるため、リウマチを疑われたことがある。

このように三症例にはC型肝炎によると思われる共通の自覚症状として、易疲労感、脱力感、虚脱感を認めた。

## (治療法)

カーボンとは患者の症状、照射部位にあわせて、AA、AB、BDの組み合わせの中から選び、治療は四台の治療器を使用し四灯照射を行った。

三例に共通の照射部位ならびに照射時間は、側臥位で、右上

腹部20分、足裏15分、下腹部5分、後頭部5分、肛門部10分、顔5分、胸5分、腰10分、膝10分、仰臥位で、左右の耳に10分、喉に左右から10分、横腹に左右から10分、膝に左右から10分であるが、併発症の有無で照射部位を追加したり、照射時間を延ばしたりした。

## (成 績)

【患者1】は、治療を始めて一ヶ月で食欲は改善したが、医師の指示もあって余り過食にならないように注意した。しかし疲労感があり、筋力も弱い状態だった。二ヶ月経った頃から顔色が良くなり、耳鳴り、めまい、不眠などが快方に向かい、四ヶ月後には治療中によく発汗するようになり冷え症も治まった。その頃から日に日に体力がついて疲れを感じなくなり、病院での肝機能検査の結果も改善しているとの報告を受けた。それから当院での治療を週に三回にして、自宅での治療と併用したが、十ヶ月後には自覚的に疲れを感じなくなり、一年後には健康そのものと喜べるまで回復した。

【患者2】は、治療開始後、約二週間で疲労感が軽くなったと言っていた。なお約一ヶ月が

過ぎた頃の夜半に電話で下痢、腹痛がひどいと指示を求めてきたので、左上腹部を中心に症状が改善するまで照射するように話したが、翌日電話で1時間30分照射したら治ったと即効性を感じていた。二ヶ月経った頃から足の痛みは楽になったが、糖尿病も下腿静脈瘤も治療には根気が必要と告げた。四ヶ月後には元気が出てきて疲労感がとれ、風邪もひかなくなり、病院での肝機能検査の成績も良好とのことなので、当院での治療は半年で打ち切り自宅で続けることにした。

【患者3】は、治療を始めてから約一週間で腰の痛みが、約二週間で手指の関節の痛みが和らぎ、一ヶ月前後で顔色が良くなり、治療中によく汗が出るようになった。二ヶ月経った頃には呼吸が楽になり、全身に力がいよみがえったと言っていた。三ヶ月後には仕事の疲れが苦にならなくなったので、それから自宅で治療を続けるように指示した。

演者はC型肝炎に対する光線療法を、主として自覚症状の改善をめどに行っているが、三症例とも治療を始めてから三ヶ月から四ヶ月で明らかな改善を認めた。しかしC型肝炎の性状から

治療は長期を要すると考え、自宅が続けるよう指示しているが、いずれの症例も自覚的には良好な状態で経過している。

## (結 語)

ウィルス性肝炎にはA型肝炎、B型肝炎以外に、血液を介して伝播する未知のウィルス性肝炎のあることが知られており、非A非B型肝炎と呼称されていたが、一九八八年に非A非B型肝炎の大半で肝炎ウィルスの抗体の検索が可能になり、C型肝炎と命名された。わが国のC型肝炎ウィルスの抗体の陽性率は約1%で、百万人以上の患者がいると推測されているが、近年、当院でも紹介されて来院する患者が増えている。なおC型肝炎には確実に奏功する治療法がなく、一部の症例で肝硬変、肝細胞癌へ移行することから、患者の多くは深刻な悩みとして受け止めている。実際、今回報告した三症例とも同様の悩みを訴えていた。

演者は光線療法にウィルスに対する免疫能を高める作用があることから、C型肝炎の患者に光線療法を行っているが、明らかな自覚症状の改善を認めたので報告した。

川崎市 東京光線治療院  
TEL04四一七二二五〇六七



## 日本療術学会

シンポジウムから

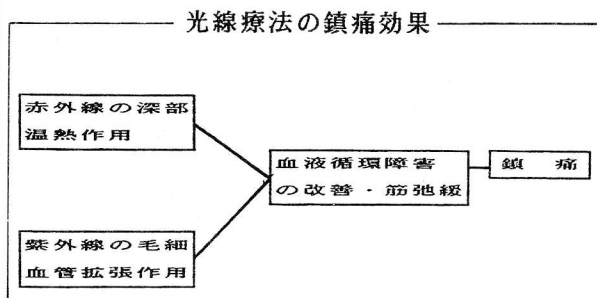
ホテルグランドパレス  
平成八年十一月十七日光線療法で痛み  
苦しみを救えるか

全国療術師協会 世話人  
光線部会代表 理事長  
小川 美行

## 緒言

すべての医療行為の起源は、  
どうすれば痛みや苦しみを患者  
者を救えるかの研究から始まっ  
たといっても過言でない。今回  
演者が述べる光線療法もあらゆ  
る原因に基づく痛みに対し、  
1に示したように、主として光  
線に含まれる赤外線と紫外線と  
しての特性を利用した深部温熱  
作用による血流の促進、筋弛緩  
作用に加え、光線の紫外線の化  
学作用で生成されるヒスタミン

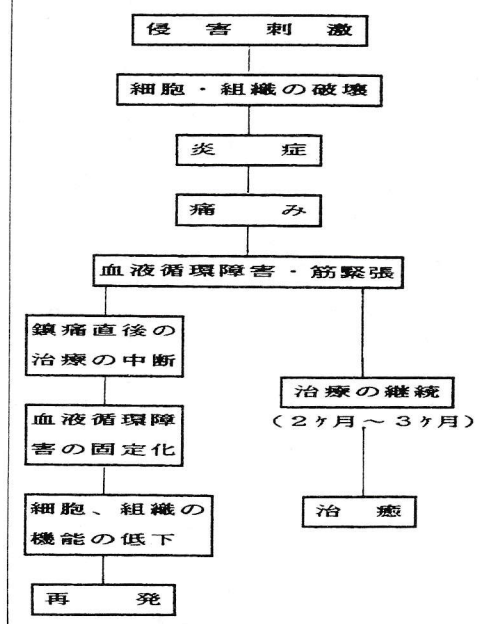
&lt;図1&gt;



ならびにヒスタミン類似物質の毛細血管拡張作用によって、照射部の血液循環障害を改善して優れた消炎・鎮痛効果を示すが、このことは経験した人すべてが口にするところである。  
ここでは実際に経験するさまざまな痛みの治療の中から、しばしば経験する外傷に基づく運動器の痛みの治療の要点とガン患者の痛みを軽減しQOLを保つ緩和療法としての有用性について、光線療法の立場から考察

&lt;図2&gt;

## 炎症に伴う痛みの慢性化の機構



する。

## 運動器の痛みの

## 治療の要点

よく耳にする話だが、ギックリ腰や捻挫は癖になるという。これは一度痛めた患部は再発しやすいため、演者の治療院でも三人いれば二人は、何処その病院、あるいは治療院で治ったと思ったのに、今度はなかなか治らないという類の話を聞く。確かに二度三度と再発を繰り返しているうちに段々と症状が慢性化して悪化し、治りにく

くなるのは間違いない。またこれと同様な現象として、加齢に伴い何時とはなしに症状が出現する骨・関節疾患(運動器疾患)がある。これは加齢に伴い長年にわたって積み重ねた無理が気付かぬうちに関節に繰り返しの過重な負担として作用して炎症を起こし、その警告信号として痛みが出ると思われる。このように炎症に伴う痛みが慢性化する機構と治療の要点を図2にまとめた。すなわち侵害刺激によって細胞や組織が破壊されて炎症を起こした患部には

痛みと共に血液循環障害や筋緊張を認めるが、治療の要点は痛みがとれた時点で完治と考えて治療を中断してはならない。痛みがとれた段階は症状がとれただけで、傷めた患部の血液循環障害が改善されないまま固定化すると、そこを流れる血液で養われている筋組織や支持組織の機能が日が経つに連れて低下し、些細な刺激で障害を起こし易くなり、またその範囲も拡大し易くなると思われる。それ故演者は痛みがとれてもある期間治療を続けることが極めて大切なことと考えているが、この点に関して実際にギックリ腰や捻挫のような外傷性疾患の治療で経験する次の三点を指摘したい。

- (1) 受傷直後から光線治療を行うと、一度の照射で歩行が容易になり、三、四回の治療で回復し再発しにくい。これは速やかに血液循環障

## (四 ページよりつづく)

害を改善し、組織の再生を促す作用によるものと思われる。

(2) 初めての受傷でも数週間から数ヶ月放置した場合や再発例の場合、光線治療を始めて痛みが治まった時点で治療を中断すると再発する例がしばしば見られる。これは痛みがなくなっても、患部の血流や組織障害の回復が不十分なためと思われる。

(3) 慢性化した重症例でも、痛みがとれてから二ヶ月から三ヶ月間の光線治療を続けた例では、演者の経験では五年間の経過観察で再発は見られない。

以上の事実は光線の深部温熱作用によって罹患部の血流を速やかに改善して鎮痛作用をもたらすが、慢性化した症例の罹患部の組織の血液循環障害が完治して完全に再生、修復されるま

で二ヶ月から三ヶ月の期間を要するためと思考している。

また高齢者の骨・関節疾患の場合には、痛みが改善しても治療を中断することなく長期に続けることが再発、増悪を防ぐために一層肝要であるが、副次的効果としてビタミンD欠乏症を防ぎカルシウム代謝を正常にして、骨粗鬆症の予防、治療に益することを強調したい。

## 保温式多灯照射による

## ガン緩和療法

光線療法には、ガンの痛みを軽減し、患者のQOL(生活の質)を保つ緩和療法として有用な作用が期待できるが、この際、気を付けなければならないことは、光線療法に過大な期待感を抱かせてはならないことである。演者は患者とその家族が、光線療法は病院の治療に代わるものではないことを納得してから治療しているが、三大痛といわれているガン、肺炎、胆石の痛みのように七転八倒する内蔵痛

がある場合には、病院の診断、治療を受けて落ち着いてから光線療法を併用するようにしている。

ところで演者の治療院では光線療法の温熱療法としての作用を活用するため、演者が創案した保温式多灯照射(本紙平成6年1月1日発行・「ドーム式ベツトを用いた四灯同時照射」参照)を用いている。すなわち同時に四台の治療器を使い、原則として二台は赤外線を多量に放射するBカーボンセットして痛みのある部分をはさんで両面から照射し、残りの二台は各波長をほぼ均等に放射するAカーボンセットして足裏、膝に各45分照射しているが、保温式多灯照射の方が一台で照射するよりガンの痛みに対する鎮痛作用がすぐれていることを経験している。

## 光線療法に伴う作用

長期入院患者や重症患者は屋外で光線を浴びる機会が減るため、健常者に比べビタミンDの

不足を起こし易く、ひいてはカルシウムの体内分布の恒常性を失い、あらゆる生理機能が低下することが指摘されている。したがって光線療法を併用してビタミンDを補うことは、ガン患者の抗病力を強める点で有用な可能性が示唆されるので、この点について文献から考察する。

ビタミンDについては、カルシウム調節ホルモンとしてカルシウムの体内分布の恒常性を保つ上で中枢的な役割をはたし、カルシウムを介してすべての生理機能に不可欠な作用を営んでいることはよく知られているが、一九八〇年代になってビタミンDの受容体を持つ細胞(標的細胞)が体内に広く分布することが明らかにされてから、新たな知見が積み重ねられている。すなわち免疫との関連では、免疫担当細胞のマクロファージや活性化したリンパ球にビタミンDの受容体があり、ビタミンDが直接免疫応答に関わっていることが明

らかにされた。また腫瘍細胞との関連については、ビタミンDがマウスの骨髄性白血病細胞を正常なマクロファージに分化させることが発見されたのが端緒となつて、実にさまざまな腫瘍細胞でビタミンDの受容体が証明され、ビタミンDに腫瘍細胞の増殖を抑制する作用のあることが報告されている。

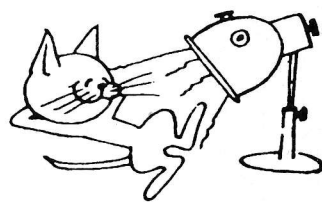
## おわりに

光線療法には温熱作用を主体にした物理作用と光化学物質(光産物)による化学作用の両面の作用があるが、保温式多灯照射による温熱作用の相乗効果が、患者のさまざまな苦痛を和らげ、QOLを高めることに関わっている。

以上、光線療法について、運動器に関連した痛みに対する治療の要諦とガン患者のQOLを保つ緩和療法としての有用性について報告した。

仙台サナモア治療院  
TEL022-1375-1316





## — 治 験 例 報 告 —

### ☆慢性肝炎

症例 48歳 男性 会社員

症状 九年前に海外勤務で東南アジアに駐在していた頃に、B型肝炎に罹り、約一ヶ月間入院し、肝機能が正常化したので退院した。その後は病気が治癒し、病気がなく、人一倍健康に注意していたが、仕事で忙しく睡眠不足が一ヶ月余り続いた昨年の十二月に急に身体がだるく疲れ易くなり、食欲も急速に減退し、腹が張る感じがしたので、会社近くの診療所を受診し、血液検査の結果、慢性肝炎と診断された。

医師に特効薬はなく、完治は難しいが、最善の治療は安静と食事療法で、特に安静が大事、といわれたと友人に話すと、光線療法を併せてやったらと勧められ来所した。

療法経過 BDカーボンで右上腹部(肝臓部)に集光器を使って、前から20分、横と後方から

各10分、臍中心で腹部前後から開放で各10分、ABカーボンで足裏20分、膝10分照射することにした。

最初の二週間に三回の治療を受けてから自宅での治療に移行したが、肝臓部には朝晩二回照射するように指示した。また毎日の帰宅時間を早めにし、安静と睡眠を十分にとることが重要だと話すと、医師にも同じことをいわれた、といっていた。

三ヶ月経って、定期的な血液検査を受けている診療所の帰りに来所し、回復が早く病状が安定してきた、といわれたと安堵と嬉しさが顔つきに現れていた。事実、光線療法を始めて一ヶ月後には、右脇腹あたりの重苦しさや疲れ感が軽くなっていった。また以前ならムツツとした油濃い食べ物に思わず箸が出る。病院ではビタミン剤とブドウ糖

の注射だけなので、光線療法が効果をあげていることを確信するようになった、といっていた。

光線療法は、未だ決定的な治療法がない慢性肝炎に対し、肝機能を回復する積極的な副作用のない治療法といえるが、病気が病気になる、症状が良くなったといっても油断は禁物で、これからは気長に光線療法を続けることが文字通り肝心であると話した。

現在、症状は順調に軽快に向かい、健康な人と殆ど同じ程度の日常生活を送り、健康管理に気をつけながら光線療法を続けている。

神戸市 ウエノ光線療研 上野 健太郎氏報告

TEL078-813-3111 一三五八

### ☆ぎっくり腰

症例 30歳 女性

### 「愛用者」だより

#### ☆湿疹に苦しむ

板橋区 高橋三男

長い間湿疹に苦しみ色々薬を試しましたが結果は今日とつで、どうしたものかと思案にくれていました。たまたま、姪の紹介で光線治療のことを知り、サナモア8号器を購入、だめでもともとと言った軽い気持ちで使用しはじめました。ところが二ヶ月程で、

あの苦しみから解放され、本当に嬉しく何とお礼を言ったら良いかわからない程です。光線療法学の本には、他にも色々効果があると書いてありますので、これからは自信を以て使っていくと思っています。本当に有難うございました。

#### ☆副作用が無く安心

静岡 石田静枝

副作用が無く、安心して使えるところが叔父の紹介でサナモア光線治療器を一台買い求めました。一ヶ所10分15分

身体のおちこちに当てると良いと言うので、腰や肩や歯の痛み風邪や便秘等にも使っています。治療器の故障もほとんど無く、コードの修理とホールダーの交換位で、いつも自分専用のお医者様として愛用しております。知人が病気で苦しんでいる時、貸してあげることがありますが始めは信用してもらえません。でも使っているうちに納得される様で、「自分も一台…」と、お求めになられる方が多くとても感謝されております。

### サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA、B、C、Dカーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」でもども愛用者各位の御信頼を頂き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様方よくご存知の通りであります。

ところが他社製カーボンには、「光線療法学」をセッとしたり、サナモアA、B、C、Dと効果が同じという根拠もないような文句で互換表を添付して販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる行為をする者が何時の世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので、ご注意下さい。

(サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商標「B」のマークが必ずついています。)

東京光線療法研究所

症状 朝、洗面しようとして中腰になった途端に腰に激痛が走り、そのままの姿勢で動けなくなりました。少しでも姿勢を変えようとすると電撃的な痛みが走る

ので、どうしても出来なくて、言うようにして光線治療器のところにいき、最も楽な海老のようになり前かがみの姿勢で横になり、

その場で光線療法を始めた。

療法経過 BBカーボンで全開で腰の痛みが治まるまで約三十四時間照射した。昼頃には激痛がなくなつたので照射を中断し、恐る恐る尻振りダンスのように腰を左右に動かしたり、上半身を前に曲げたり後ろに反ったりしてみたが、深部に痛みが残っていた。そのため午後はBDカーボンで深部の痛みがとれるまで約三時間照射したが、夕刻にはあれほどの激痛もとれて動けるようになり、家族の夕食の準備をすることが出来た。

その後、腰痛を完全に治し再発を防ぐために、毎日、BCカーボンで、腰部、足裏、足首、膝、背に各20〜30分、BB又はBDカーボンで腹部に20分位照射しているが、腰痛は認められない。

春日市 育美健康光線療研

山崎 いく子氏報告  
TEL092-581-2039



## 来所に至るまでの経緯

患者 39歳 女性 病院事務員  
発症の状況 昨年の八月に家族で海水浴に行き、午後から海岸で左を下にして寝入ってしまった、

## 一例としての主要徴候を運動障害

横浜市 関根治療室 関根 栄一

も動きが悪く、頭がフラフラして、立つことも動くことも出来なくなり、御主人の助けを借りて病院通いが始まった。  
病院の対応 当初は二つの大学病院を受診したが、血液検査から脳のCTまでおよそ考えられ

る検査をすべて行い、特別な異常は認められないと言われた。その間、いろいろな情報を得て、埼玉医大の平衡神経科を受診することにしたが、そこで医師に「病気です」、と言われ、まわりの同様な症状の患者を見て、はじめて治してもらえるような気がした。なお医師はそれまで服用した薬を見て、「薬が強すぎるので替えます」、と新たに処方してくれた。

平衡神経科での検査の結果、患者の話によると「小脳中脳水道症候群」と診断され、大脳と小脳の間にある中脳水道に水が溜まり、身体が脳の命令と逆の動きをする、例えば上げようとすると下に押さえてしまうので立てない、動けないという症状が出る、と説明された。治療については平衡神経科と脳外科の間で手術的に水を抜くことの可否が検討されたが、脳外科の人は大勢いるし、手術で小脳に傷でもつけたら却って危険である」との意見でしなないことになり、

薬と理学療法（リハビリ）を併用することになった。三ヶ月間入院し、自力で車椅子を動かせるようになったが、退院の一週間前に車椅子ごと転倒、再び立てない、動けない状態に逆戻りした。しかし入院中に勧められた「光線療法」を是非試してみたいと連絡があり来所した。

## 治療方針を立てる

射したが、  
①治療を熱がる。身体が相当に冷えている。  
②脱水ぎみで汗が出ない。トイレに一人で行けないため、極力水を飲まないようにしていた。

治療方針を説明 患者の状況から、

- ①身体の冷えをとるため、温かいものをとり、冷たいものを飲まない（患者は冷たいものが好きで、牛乳にも水を入れて飲んでた）。
- ②水代謝を良くするため、一日一升位の水分を補給する。
- ③血行を良くするため、光線治療は四灯同時照射で、足裏、膝、腹、腰に各40分照射する。

これを治療方針とする旨を説明し、患者も納得した。

## 回復のきざし

初回治療から三回目までは、身体の冷えをとるため熱作用の強い赤外線用カーボン（Bカーボン）を使ったが、はじめは25

分位で真っ赤になり35分がやっとだった。四回目から40分の治療に耐えられるようになり、その後は患者の訴えや病状を診ながらカーボンを変え、最初の十日間は毎日治療した。

五回目に来所された頃には、手足が楽になり、頭が重くふらついて眠れなかったのがぐっすり眠れるようになり、便通も良くなった。

七回目の治療後、御主人に両脇を支えられて、自力で両手足を動かしながら治療室から出て来た。座布団に横になり、自分の手で足を引き寄せて座り、自力でコップの麦茶を飲んだ。それから患者は体調が良くなるのをはっきり感じるようになり、身体の動きも段々とスムーズになった。

患者は十二回目の治療で来所した際に「ろれつが回らなくなり、足腰が痛い」、と言っていたが、埼玉医大平衡神経科の勧めで山梨県の温泉リハビリ病院に三ヶ月間入院することになった。



## (七ページよりつづく)

ため治療を中断した。しかし身体が動くようになったので将来に希望を持ったように見受けられた。

## 温泉リハビリ病院で

一ヶ月半ほどして「リハビリ病院の治療を打ち切り、光線療法をしたい」と、連絡があり予約を受ける。病院では院長に光線療法を受けていたことや治療方針の話をしたが、院長は「私どもも同じ考えです。温泉で温め、水代謝を良くし、薬で血行を改善する」と言われた。しかし

担当の若い女医はカルテを見るなり「こんな強い薬、私なら絶対に出しません。それにこんな病気、治せるわけがない」と、言うし、病院には温泉だけで温泉プールもないし、効果もそれほどないので、早目に退院した、と言っていた。

## 動けるようになる

再来時、患者は極めてゆっくり身体を振りながら歩けたが、話そうとしても2—3秒しない

と言葉にならず、舌の回りも悪く聞き取りにくかった。

再開一回目、通算十三回目の治療は気分が悪くなり30分で打ち切った。治療後、患者はトイレに行きものすごく臭い尿が出る、と言う。家族も尿が臭いと言う。なお再開三回目から治療を一日おきにした。

再開四回目、通算十六回目に、来るなり「昨日から普通に話せるようになった」と、喜色満面で話す。治療室にも身体を振り振り人手を借りずに入り、一人で出てくる。「身体中が痛く、特に足が痛い」と言うが、実質的に八ヶ月間寝たきりだったのだから、時間をかけて身体を作るしかない、と話す。この段階で回復の見通しが立ったと判断した。

その後は顔面に一台増やして五灯照射とし時間は30分にしたが、少しずつ力がついてきて、顔もふっくらとし、なかった生理も順調になった。また通算で三十二回目頃から尿の臭いなくなってきた。

通算三十四回目の治療後、ご

主人の転勤が決まり、それから診ていないが、大丈夫と言うことで転居されたと考えている。

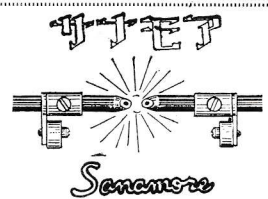
## 総括ならびに結語

報告例には手足が全く動かない高度の運動障害に加えてさまざまな訴えがあり、患者と家族の悩みは極めて深かったが、経過をつぶさに観察して、器質的な病気なのか心因性の機能的な病気なのか、さまざまな疑問点がある。このような状況で光線療法を始めたが、比較的短期間で運動障害が改善し動かなくなった手足が動くようになり、それに伴って一般状態も著しく改善した。

以上、光線療法によって回復した重度の運動障害の一例を報告したが、光線療法の安全性、有効性を示すものと信じている。

平成8年10月29日に工業教育会館にて開催された第十八回全国療術師協会光線部会に於ける発表を要約した。

(横浜市都筑区東山田138—25)  
TEL045—5593—3810



サンモア光線協会

趣意書

天地創造の昔から、真の光、即ち太陽光線は、私たちに限らない恩恵を与えています。サンモア光線療法は、この太陽光線の健康増進、疾病予防および治療効果を利用した治療法です。従って、目に見える可視光線だけでなく、目には見えないが無くてはならない紫外線や赤外線を目的に応じて適切に放射しなければなりません。

このサンモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙、普及活動を行うためサンモア光線協会を設立しました。

サンモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。

サンモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

協会では、会員を募集しております。入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153 東京都目黒区目黒4—6—18

サンモア光線協会 TEL(03) 三七九三—五二八一  
(三七二—五三三三)

(本紙の無断転用を禁止します。)